

「第4次いしかわ食育推進計画」(案) に対するパブリックコメントの結果について

- 1 依頼時期 : 令和4年2月10日(木)～3月2日(水)
- 2 寄せられた意見 : 3件

番号	意見内容	左記に対する考え方
第3章 計画の基本的な考え方【1件】		
1	<p>「SDGs アクションプラン2022」において、「人間：感染症対策と未来の基盤づくり 2健康・長寿の達成」に、2021.12に開催された「東京栄養サミット2021」を踏まえ、UHC(ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ:すべての人が、適切な健康増進、予防、治療、機能回復に関するサービスを、支払い可能な費用で受けられること)の達成、持続可能な食料システムの構築、栄養の国際目標の実現に向けた栄養改善、栄養施策の推進が掲げられました。その「東京栄養サミット2021」のコミットメントとして、(公社)日本栄養士会中村丁次会長は「誰一人取り残すことなく健康、疾病予防、機能回復のサービスを楽しむことができる社会の創造に栄養改善は不可欠であり、栄養はSDGs全体を底辺から支える役割を担っていることから、持続可能な栄養改善の基盤を構築することを支援する」と述べています。</p> <p>このような流れを踏まえ、全ての県民の健康・長寿の達成にむけた栄養改善、栄養施策の基盤となる石川県の食育推進計画の基本的な考え方として、SDGsの考え方を取り入れることを提案いたします。</p> <p>また、SDGs17の目標や農林水産省の「食育ピクトグラム」のように、より県民に理解しやすく且つ企業や県民一人ひとりが自分の行動計画をイメージできるような構成になると、よりよいのではないかと思います。</p>	<p>SDGsについては、国の第4次食育推進基本計画(R3.3策定)においても、食育の推進はSDGsの達成に寄与するものと記されており、本県においても、計画全体に関わるトピックとして、SDGsと食育のつながりについて紹介することとしております。</p> <p>また、ご指摘のとおり、食育の推進については、県民一人ひとりの取り組みが重要になってくることから、目標や取り組みをライフステージごとに整理して分かりやすくした参考資料を添付することとしております。</p>
第4章 計画の具体的な内容【2件】		
2	<p>コロナ禍で自宅で過ごす時間が多くなっているこの機会に、県民がこれまで以上に家庭での食育に取り組むことができるよう後押ししてほしい。</p>	<p>ご指摘のとおり、「食育に関する県民意識調査」においても、新型コロナウイルス感染症の流行前と比べ、自宅で料理や食事をすることや家族との共食が増えております。</p> <p>このことを踏まえ、各家庭において、食育に関する知識やバランスの良い食を選択する力、食を楽しむ家族とのつながりを大切にする力等を身に付けられるよう取り組みを一層推進してまいります。</p>
3	<p>食生活は小さい頃からの意識付けと習慣化が大事だと思います。意識が身につけば、若いうちは不摂生でも、大人になってから行動を変えることもしやすいと思います。</p> <p>テレビでもよく取り上げられるように、石川県は、全国的にもおいしい食べ物に恵まれた地域だと思います。給食などを通じて、積極的に子どものうちから身近に接するのがよいと思います。</p> <p>若い人はなかなか関心を持たないテーマでもあると思うので、興味を引き付けるためのやり方を工夫することが必要だと思います。今の時代、色々なところでデジタル化ということが言われているので、効果的に活用することが大事だと思います。</p>	<p>小さい頃からの健全な食生活や望ましい食習慣は重要と考え、本計画においても重点課題として「子どもの基本的な生活習慣の形成」を挙げ、積極的に取り組んでいくこととしており、ご家庭はもとより学校や保育所、認定こども園等と協力しながら取り組みを推進してまいりたいと考えております。</p> <p>また、若い世代に対しては、デジタル技術を活用し、若い世代がアクセスしやすい工夫をするとともに、若い世代の関心事を切り口とした食の情報発信など工夫を凝らした取り組みを推進してまいります。</p>